

# ホクコートップジン®M水和剤

■種類名：チオファネートメチル水和剤  
 ■有効成分：チオファネートメチル -----70.0%  
 ■PRTR法指定物質：チオファネートメチル [第1種] -----70.0%

■登録番号：第11575号  
 ■毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)  
 ■登録初年：1971.05.01  
 ■性状：淡褐色水和性粉末 45μm以下  
 ■有効年限：4年  
 ■包装：250g×60袋、500g×20袋  
 333g×30袋(地域限定)

## 【特長】

- 広範囲の病害に有効なベンズイミダゾール系殺菌剤。
- 予防効果だけでなく、強い浸透力により治療効果も有する。
- りんご、なしなど果樹類から果菜・葉菜などの野菜類、花類など極めて幅広い作物に適用がある。

## 【適用内容】(2022年6月22日現在)

作物名	適用病害名	希釈倍数(倍)	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チオファネートメチルを含む農薬の総使用回数
みかん	そうか病	30	8ℓ/10a	4～6月	5回以内	空中散布	8回以内 (塗布は3回以内、 散布、空中散布及 び無人航空機散布 は合計5回以内)
	灰色かび病 そうか病	1000～1500					
かんきつ (みかんを除く)	貯蔵病害(軸腐病) 貯蔵病害(青かび病) 貯蔵病害(緑かび病)	2000～3000	200～ 700ℓ /10a	収穫前日まで	6回以内	散布	8回以内 (塗布は3回以内、 散布及び無人航空 機散布は5回以内)
	黒星病 うどんこ病 黒点病、褐斑病	1000～2000					
りんご	輪紋病、すす点病 すす斑病、腐らん病 モニリア病(実腐れ)	1000～1500	-	収穫前日まで	1回	灌注	10回以内 (塗布は3回以内、 灌注は1回以内、 散布は6回以内)
	白紋羽病	500～1000					
なし	黒星病、うどんこ病	1000～2000	200～ 700ℓ /10a	収穫前日まで	6回以内	散布	11回以内 (塗布は3回以内、 休眠期の散布は1 回以内、灌注は1 回以内、生育期の 散布は6回以内)
	腐らん病	1000					
	輪紋病 心腐れ症(胴枯病菌) 胴枯病	1000～1500					
	白紋羽病	500～1000					
マルメロ かりん	腐らん病	1000～1500	-	収穫前日まで	6回以内	散布	9回以内 (塗布は3回以内、 散布は6回以内)
かき	うどんこ病 炭疽病、落葉病 黒星落葉病 すす点病						
	灰星病、黒星病 ホモブシス腐敗病 枝折病、うどんこ病						
もも	実炭疽病	1000	200～ 700ℓ /10a	収穫3日前まで	4回以内	散布	7回以内 (散布は4回以内、 塗布は3回以内)
ぶどう	灰色かび病、褐斑病 うどんこ病 黒とう病	1000～2000	-	収穫45日前まで	1回	-	5回以内 (塗布は3回以内、 休眠期の散布は1 回以内、生育期の 散布は1回以内)
	晩腐病、芽枯病	1000					
	苦腐病	1000～1500					

作物名	適用病害名	希釈倍数 (倍)	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	チオファネートメチルを 含む農薬の 総使用回数
おうとう	灰星病、せん孔病 幼果菌核病	1000~1500	200~ 700 ㍓ /10a	収穫 14 日前まで	3 回以内	散布	6 回以内 (塗布は 3 回以内、 散布は 3 回以内)
びわ	ごま色斑点病	800					7 回以内 (塗布は 3 回以内、 散布は 3 回以内、 灌注は 1 回以内)
	灰斑病	800~1000					
小粒核果類	灰星病 環紋葉枯病 葉炭疽病 黒星病 黒粒枝枯病	1000~1500	200~ 700 ㍓ /10a	収穫 21 日前まで	3 回以内	散布	すももは 6 回以内 (塗布は 3 回以内、 休眠期の散布は 1 回以内、 生育期の散布は 3 回以内)、 その他の小粒核果 類は 6 回以内(塗布 は 3 回以内、散布は 3 回以内)
							いちじく
黒かび病、そうか病	1000~1500						
いちじく	株枯病	500	1~10 ㍓/株	収穫前日まで	6 回以内	灌注	8 回以内 (塗布は 3 回以内、 散布は 5 回以内)
	キウイフルーツ	果実軟腐病	200~ 700 ㍓ /10a				
あけび(果実)	うどんこ病	1000		収穫 30 日前まで	2 回以内	5 回以内 (塗布は 3 回以内、 散布は 2 回以内)	
オリーブ	梢枯病	500	-				植付前
りんご(苗木) なし(苗木)	白紋羽病	500		7 回以内 (散布は 6 回以内)			
もも(苗木)					3 回以内		
桑(苗木)							
水稲	ばか苗病	300~500	-	は種前 (浸種前 又は 浸種後)	1 回	6~24 時間 種子浸漬	3 回以内 (種子への処理は 1 回以内)
		30					
小麦	雪腐病	1000~2500	60~150 ㍓/10a	根雪前	3 回以内 (出穂期以 降は 2 回 以内)	散布	4 回以内 (種子への処理は 1 回以内、散布及び 無人航空機散布は 合計 3 回以内、 出穂期以降は 2 回 以内)
	雪腐大粒菌核病	1000	25 ㍓/10a				
	赤かび病	250					
	うどんこ病	1000~1500					
	眼紋病	1000					
麦類 (小麦を除く)	雪腐病	1000~2500	60~150 ㍓/10a	根雪前	3 回以内 (出穂期以 降は 1 回 以内)	散布	3 回以内 (種子への処理は 1 回以内、出穂期以 降は 1 回以内)
	赤かび病	1000~1500					
	うどんこ病	1000~2000					
	眼紋病	1000					
だいず	紫斑病	種子重量の 0.5%	-	は種前	1 回	粉衣	4 回以内 (種子への処理は 1 回以内)
		700~1500					
あずき	菌核病	700~1000	100~300 ㍓/10a	収穫 14 日前まで	4 回以内	散布	5 回以内 (種子への処理は 1 回以内、は種後は 4 回以内)
	輪紋病、炭疽病						
いんげんまめ	角斑病、菌核病	700~1500	-	収穫 7 日前まで	-	-	-
	苗立枯病						
	炭疽病						

作物名	適用病害名	希釈倍数 (倍)	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	チオファネートメチルを 含む農薬の 総使用回数		
えんどうまめ	褐紋病、褐斑病 灰色かび病	1500~2000	100~300 % <sup>10</sup> a	収穫7日前まで	4回以内	散布	5回以内 (種子への処理は1 回以内、は種後は4 回以内)		
実えんどう さやえんどう		2000		収穫前日まで	3回以内		4回以内 (種子への処理は1 回以内、は種後は 3回以内)		
えだまめ	菌核病			4回以内	5回以内		5回以内 (種子への処理は1 回以内、は種後は 4回以内)		
らっかせい	褐斑病、黒渋病 灰色かび病	1500~2000						収穫7日前まで	
	そうか病、茎腐病	1500		5回以内	5回以内		5回以内		
やまのいも	葉渋病、炭疽病	800						収穫45日前まで	
やまのいも (むかご)				収穫7日前まで	5回以内 (種いもへの処理 は1回以内)				
ばれいしょ	菌核病	1000~1500		—	植付前		1回	20~30 分間種い も又は苗 茎部浸漬	1回
かんしょ	黒斑病	200~500		—	貯蔵前~ 伏せ込み前				
	基腐病				20~30 分間種い も浸漬				
さといも さといも(葉柄)	黒斑病	200~500	—	植付前	20~30 分間種い も浸漬				
キャベツ	根朽病、株腐病	1000	100~300 % <sup>10</sup> a	収穫3日前まで	2回以内	散布	3回以内 (種子への処理は1 回以内、は種後は 2回以内)		
	菌核病	1000~1500						収穫7日前まで	
はくさい	白斑病、炭疽病	1500		収穫前日まで					
	菌核病	1500~2000						収穫14日前まで	
カリフラワー	菌核病	2000		収穫21日前まで					
ブロッコリー								1500	収穫14日前まで
非結球レタス	菌核病、灰色かび病	1500~2000		収穫28日前まで					
せり	葉枯病	2000						収穫60日前まで	
食用べにばな (花)	炭疽病			1500					収穫14日前 まで ただし、伏せ 込み栽培は 伏せ込み前 まで
食用ぎく	褐斑病	2000						収穫14日前 まで ただし、伏せ 込み栽培は 伏せ込み前 まで	
セルリー	斑点病		2000	収穫30日前まで					
みつば	菌核病	2000			収穫30日前まで				
みしまさいこ	炭疽病		1000	—		植付前	1回	30分間 苗浸漬	1回
甘草	株枯病	200	—	植付前	1回	球根 瞬間 浸漬	1回		
食用ゆり	鱗茎さび症	50	—	植付前	1回	球根 瞬間 浸漬	1回		

作物名	適用病害名	希釈倍数 (倍)	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	チオファネートメチルを 含む農薬の 総使用回数		
レタス	菌核病、灰色かび病	1500~2000	100~300 ㍗/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	4回以内 (種子への処理は1 回以内、灌注は 1回以内、散布は 2回以内)		
	すそ枯病	1500	1.5 ㍗/㎡	収穫45日前まで					
	ビッグベイン病 菌核病								
にら	白斑葉枯病、乾腐病	1000	3 ㍗/㎡	収穫21日前まで	1回	灌注	2回以内 (種子への処理は 1回以内、は種後 は1回以内)		
メロン	つる枯病 陥没病	1500~2000	100~300 ㍗/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	5回以内 (種子への処理は 1回以内、塗布は 1回以内、散布は 3回以内)		
かぼちゃ	白斑病	1000							
すいか	炭疽病、菌核病	1500~2000							
きゅうり	菌核病、灰色かび病 炭疽病、うどんこ病 黒星病、つる枯病								
うり類 (漬物用)	炭疽病、うどんこ病 灰色かび病 つる枯病								
にがうり	炭疽病、斑点病								
トマト ミニトマト	葉かび病、菌核病 灰色かび病								
なす	黒枯病、菌核病 灰色かび病								
アスパラガス	茎枯病、立枯病				1000				
てんさい	褐斑病				2000~3000				
ピーマン	黒枯病	4000~6000							
ズッキーニ	うどんこ病	1500			収穫前日まで		5回以内	散布	6回以内 (種子への処理は 1回以内、は種後は 5回以内)
オクラ	葉すす病								
いちご	うどんこ病	1000			収穫開始 7日前まで		3回以内	5分間 株浸漬 1時間 苗根部 浸漬	4回以内 (種子への処理は 1回以内、は種後 は3回以内)
		300~500	株冷蔵栽培 の株冷蔵前						
	3 ㍗/㎡		仮植前 仮植時及び 仮植栽培期						
ねぎ	小菌核腐敗病	1000	100~300 ㍗/10a	収穫7日前まで	1回	散布	5回以内 (種子への処理は 1回以内、苗根部 浸漬及び苗床灌注 は合計1回以内、 散布及び株元散布 は合計3回以内)		
		250	チエ-ホ <sup>®</sup> ツ 1冊(30× 60cm、土壤 量約5㍗) 当り 0.5~1 ㍗	定植直前					
	20	-	-	-	3分間 苗根部 浸漬				
	200				30分間 苗根部 浸漬				

作物名	適用病害名	希釈倍数 (倍)	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	チオファネートメチルを 含む農薬の 総使用回数
たまねぎ	小菌核病	500~1000	100~300 ℓ/10a	収穫前日まで	6回以内 (但し定植 後は5回 以内)	散布	7回以内 (種子への処理は 1回以内、苗根部 浸漬は1回以内、 無人航空機散布 は3回以内、散布 は5回以内)
	灰色腐敗病		500	—			
たらおき	芽枯症	2000	0.1~0.3 ℓ/ m <sup>2</sup>	伏せ込み後 萌芽前 但し、収穫 21 日前まで	1回	駒木 散布	3回以内 (伏せ込み前は2 回以内、伏せ込み 後は1回以内)
	そうか病	1500	200~700 ℓ/10a	伏せ込み前 但し、収穫 60 日前まで	2回以内	散布	
らっきょう	乾腐病	1000	700 ミリℓ /m <sup>2</sup>	収穫 7 日前まで	3回以内	株元 灌注	3回以内
ししとう	黒枯病	10000	100~300 ℓ/10a	収穫前日まで			
れんこん	褐斑病	1500		収穫 14 日前まで	2回以内	散布	4回以内 (種子への処理 は1回以内、は種 後は3回以内)
葉たまねぎ	黒点葉枯病	1000	収穫 7 日前まで				
しょうが	いもち病、白星病		収穫 21 日前まで	3回以内 (開花後は 2回以内)	3回以内 (開花後は 2回以内)		
なたね	菌核病	根雪前					
	雪腐菌核病						
茶	炭疽病、白星病 褐色円星病 輪斑病	1500~2000	200~400 ℓ/10a	1回	1回		
	黒葉腐病	1500					
まめ科牧草	菌核病	2000	100~300 ℓ/10a	根雪前	2回以内	散布	2回以内
いね科牧草	雪腐大粒菌核病						
ばら	うどんこ病、黒星病	1500~2000	100~300 ℓ/10a	—	5回以内	散布	5回以内
シクラメン	灰色かび病						
ゆり	葉枯病、茎腐病						
きく	褐斑病						
さくらそう	灰色かび病						
カーネーション	芽腐病						
けいとう	茎腐病、輪紋病						
ほおずき きんせんか	半身萎凋病						
りんどう	花腐菌核病						
チューリップ	球根腐敗病						
べにばな	炭疽病	1500	100~300 ℓ/10a	—	2回以内	散布	5回以内
観賞用アスパ ラガス	茎枯病	500~1000					
花き類・ 観葉植物 (トルコギキョ ウを除く)	菌核病	1500	—	5回以内	散布		
トルコギキョウ	菌核病、斑点病						

作物名	適用病害名	希釈倍数 (倍)	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	チオファネートメチルを 含む農薬の 総使用回数
樹木類 (つつじ類、かし、 さくら、じんちよ うげ、ぼけ、ホヱ う、いぬつげを 除く)	炭疽病	1000~2000	200~700 % <sup>10</sup> /10a	発病初期	5回以内	散布	5回以内
	うどんこ病 ごま色斑点病 輪紋葉枯病 斑点症(ユト <sup>10</sup> サコ <sup>10</sup> 菌)	1000					
つつじ類	褐斑病	1000~1500	100~300 % <sup>10</sup> /10a				
	炭疽病	1000~2000					
さくら	うどんこ病、ごま色 斑点病、輪紋葉枯病 斑点症(ユト <sup>10</sup> サコ <sup>10</sup> 菌)	1000	200~700 % <sup>10</sup> /10a				
	幼果菌核病	1000~1500					
	炭疽病	1000~2000					
かし	炭疽病	1000~2000	200~700 % <sup>10</sup> /10a				
	紫かび病、うどんこ 病、ごま色斑点病、 輪紋葉枯病 斑点症(ユト <sup>10</sup> サコ <sup>10</sup> 菌)	1000					
じんちようげ	炭疽病	1000~2000	100~300 % <sup>10</sup> /10a				
	黒点病、うどんこ病、 ごま色斑点病、輪紋 葉枯病 斑点症(ユト <sup>10</sup> サコ <sup>10</sup> 菌)	1000					
ぼけ	炭疽病	1000~2000	200~700 % <sup>10</sup> /10a				
	褐斑病、うどんこ病、 ごま色斑点病、輪紋 葉枯病 斑点症(ユト <sup>10</sup> サコ <sup>10</sup> 菌)	1000					
ポプラ	炭疽病	1000~2000	200~700 % <sup>10</sup> /10a				
	マルメコ <sup>10</sup> 落葉病、うど んこ病、ごま色斑点 病、輪紋葉枯病 斑点症(ユト <sup>10</sup> サコ <sup>10</sup> 菌)	1000					
いぬつげ	炭疽病	1000~2000	200~700 % <sup>10</sup> /10a				
	枝枯病、うどんこ病、 ごま色斑点病 輪紋葉枯病 斑点症(ユト <sup>10</sup> サコ <sup>10</sup> 菌)	1000					
たばこ (苗床)	腰折病	1000~2000	2% <sup>10</sup> /m <sup>2</sup>	苗床期	2回以内		2回以内
	黒根病	1000					
桑	裏うどんこ病	1000~2000	100~300 % <sup>10</sup> /10a	-	3回以内		3回以内
	汚葉病 輪斑病	1000~1500					

作物名	適用場所	適用 病害名	使用量	使用 液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用方法	チオファネートメチルを 含む農薬の 総使用回数
トマト	温室、ガラス室 ビニールハウス等 密閉できる場所	灰色かび病	100~200 g/10a	5% <sup>10</sup> /10a	収穫前日まで	5回 以内	常温煙霧	6回以内 (種子への処理は 1回以内、は種後 は5回以内)

#### 【効果・葉害等の注意】

- 使用量に合わせ秤量し、使いきることを。
- 散布の際はマスク、手袋などをして散布液を吸い込んだり、浴びたりしないように注意し、作業後は顔、手足など皮膚の露出部を石けんでよく洗い、うがいをする。

- ボルドー液との混用はさけること。
- かんきつの貯蔵病害防除に使用する場合には、青かび病、緑かび病、軸腐病、黒斑病、灰色かび病には有効であるが、黒腐病には効果が劣るので、黒腐病防除が主体の場合には使用しないこと。  
また、収穫前3週間以内〔かんきつ(みかんを除く)の場合には収穫前2～3週間の間〕に1回散布すると効果的である。
- りんごの腐らん病防除に対する本剤の使用は生育期における病菌の感染侵入阻止を目的として散布するので、生育期の通年散布とすること。
- ぶどうに使用する場合、幼果期以降の散布は果粉の溶脱や果実の汚れを生じるおそれがあるので注意すること。
- いちごに対して使用する場合には下記の注意を守ること。
  - ◆ 萎黄病防除に使用する場合には下記の注意を守ること。
    - ① 萎黄病多発地では本剤の浸漬処理、灌注処理のみでは効果が不十分な場合もあるので、植付前には土壌くん蒸を行い、本剤処理との組み合わせで防除すると有効である。
    - ② 灌注する場合は下記の注意を守ること。
      - a) 土壌の種類や条件によって効果に差が認められるので注意する。
      - b) 萎黄病は、土壌温度の高い時(20℃以上)に発生しやすいので、地温の高い仮植時期に処理すること。
      - c) 土壌条件などによっては葉色が劣ったり、多少生育抑制のみられる場合もあるが、その後の生育や収量の影響は認められていない。
    - ③ 苗根部浸漬する場合は、浸漬時間が長く(所定時間以上)なると薬害(活着不良)を生じるおそれがあるので、処理時間を厳守すること。
  - ◆ うどんこ病防除に使用する場合は下記の注意を守ること。
    - ① 株浸漬する場合は下記の注意を守ること。
      - a) 株冷蔵栽培いちごの定植時に、無病苗を得るため、冷蔵前に処理するものである。うどんこ病の発生まん延時の防除とは異なるので注意すること。
      - b) 浸漬処理薬液が葉裏まで十分付着するように薬液には展着剤を加用し、水洗した苗株を株全体がつかないように浸漬し、苗を薬液中で2～3回上下にゆすること。
      - c) 本剤処理した苗株は、水洗せずに半乾きとした後、ビニール袋に入れ、慣行に従って冷蔵すること。
      - d) 冷蔵後、定植前の処理では、効果が劣ることがあるので、必ず冷蔵前に処理すること。
    - ② 散布する場合は、葉及び果実に汚れを生じるおそれがあるので注意すること。
- いちじくに対して灌注処理する場合は次の事項に注意すること。
  - ◆ 1ヶ月間隔で使用する事が望ましい。
  - ◆ 生育抑制などの薬害を生じるおそれがあるので、ポット栽培などの根域が抑制される栽培条件での使用はさけること。
- 水稻の種子消毒に使用する場合は、下記の注意を守ること。
  - ◆ 消毒後は水洗せずに浸種又は播種すること。
  - ◆ 浸漬処理薬液の温度はなるべく10℃以下を避けること。
  - ◆ 籾と浸漬処理薬液の容量比は1：1以上とし、種籾はサラン網などの目のあらい袋を用い、薬液処理時によくゆすること。
  - ◆ 低濃度(300～500倍)長時間浸漬の場合は、薬液浸漬処理中1～2回攪拌すること。
  - ◆ 本剤処理を行った種子の浸種に当っては次の注意を守ること。
    - ① 薬剤処理した種籾は少なくとも数時間は放置して風乾後浸種すること。
    - ② 浸種は停滞水中で行うこと。
    - ③ 浴比は1：2とし、水の交換は原則として行わないこと。但し、液温が高温の場合など、酸素不足になるおそれがあるときには静かに換水すること。
  - ◆ 薬液処理した種子は、食料、飼料に使用しないよう注意すること。
- れんこんに使用する場合は、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。
- 麦の雪腐病防除に使用する場合は、散布液量は10アール当たり100㍓が標準である。なお、1回散布の場合にはなるべく根雪近くに行くと効果的である。
- 小麦の少量散布で使用する場合は、少量散布に適合したノズルを装着した乗用型の速度連動式地上液剤散布装置を使用すること。
- チューリップの球根粉衣は、植付前又は貯蔵前に球根1kgに対し、本剤1gを均一に粉衣すること。
- 本剤を大型散布機で使用する場合には、各散布機種種の散布基準に従って実施すること。
- 本剤は、連続使用によって一部の病害に耐性菌が生じ、効果の劣った事例があるので、過度の連用をさげ、なるべく作用性の異なる薬剤と組み合わせて輪番で使用すること。
- 大豆の紫斑病に対しては、落花後～若莢期に2～3回散布する。
- 大豆の紫斑病防除には種子消毒のみでは不十分なので、生育期の散布による防除と組み合わせて使用すること。
- 果樹の白紋羽病に対し、灌注処理する場合は樹幹部周辺の土壌を木の大きさに応じて掘りあげ、根を露出させ、病根をていねいに除去したのち、所定濃度の希釈液を一本当り成木では200～300㍓、苗木では20～30㍓かん注すること。
- かんしょ、さといもの種いも消毒後は水洗せずに薬液が乾いてから植付けること。薬剤処理した種いもは食料、飼料に使用しないこと。
- アスパラガスの茎枯病の防除は収穫打ち切り後、残茎を取り除き、新しく萌芽した茎を対象とすること。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。また、桑に使用後3日間は蚕に桑葉を給餌しないこと。
- ハウスなどの常温煙霧用として使用する場合は下記の注意を守ること。
  - ◆ 専用の常温煙霧機により所定の方法で煙霧すること。特に常温煙霧装置の選定及び使用に当っては、病害虫防除所等関係機関の指導を受けること。
  - ◆ 作業はできるだけ夕刻行い、作業終了後6時間以上密閉すること。できれば翌朝までとすること。
- たばこの親床での処理は播種後10日目から1週間間隔で、子床での処理は仮植後7日目から1週間間隔で薬液を散布すること。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 【安全使用上の注意】

- ❖ 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗すること。
- ❖ 使用の際は農薬用マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。  
作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- ❖ 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- ❖ かぶれやすい体質の人は取り扱いに十分注意すること。
- ❖ 常温煙霧中はハウス内へ入らないこと。  
また、常温煙霧終了後はハウスを開放し、十分換気した後に入室すること。
- ❖ 街路、公園等で使用する場合は、使用中及び使用後（少なくとも使用当日）に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。
- ❖ 魚毒性等：水産動植物(魚類)に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- ❖ 保管：直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。